

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立飛騨神岡高等学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和3年10月18日(月) 13:30~15:30
- 3 開催場所 岐阜県立飛騨神岡高等学校 ゼミナール室
- 4 参加者

会 長	川上 佳洋	NPO 法人宇宙まるごと創生塾 飛騨アカデミー代表
副会長	植田 要助	神岡商工会議所専務理事
委 員	山田 ゆかり	総合型地域スポーツクラブ 一般社団法人 飛騨シューレ
	田中 智枝	田中料理教室
	田口由加子	NPO 法人神岡・まちづくりネットワーク レールマウンテンバイク事務局(欠席)
	帰家 圭吾	有限会社 かんや代表
	山口 郁夫	育友会会長
	島田 紀子	東洋建材資材
オブザーバー	都竹 淳也	飛騨市長
	布俣 正也	岐阜県議会議員
学校側	棚橋 武司	校長
	藤守 学	教頭
	田屋 忠司	事務長
	松本 正人	教務主任
	一ノ瀬伸郎	生徒指導主事
	小原 薫	第3学年主任(進路指導主事代理)
	中村 英樹	教務部特別活動担当

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 挨拶
- (2) 自己紹介
- (3) 協議事項
 - ①入学動機調査について
 - ②学校評価アンケートについて
 - ③地域連携による活力ある学校づくり推進事業について
 - ④各担当より

⑤スクール・ポリシーについて

⑥その他

4 協議・意見交換

入学動機調査、学校評価アンケート、地域連携による活力ある学校づくり推進事業について

意見1：入学生の地域等の内訳はどうか。

回答 入学生52名、内訳は飛騨市が36名（神岡中26名、古川中10名）、高山市13名、その他で下呂市や白川村などから入学している。

意見2：保護者アンケートでいじめの項目に対して「わからない」とする回答が多い。

回答 同様の内容の生徒対象アンケートでは90%の生徒が肯定的にとらえている。生徒には学校の対応が伝わっても保護者には伝わりにくいことも感じている。そこで学校HPにいじめ防止基本方針も載せて対応はしているところである。

各担当より

意見3：オンライン授業を実施する上で、各家庭のWi-Fi環境はどうか。

回答 すべての家庭で十分とはいえない。アンケートを取り、Wi-Fi環境がない家庭には県のルーターを貸し出している。ただ寮についてはWi-Fi環境がないので今後考えていきたい。

その他

意見4：ICT教育については小中学校でかなり水準の高い発表をしている。中学3年生になるとかなり突っ込んだ探究をして提案をしている。それを踏まえ高等学校としては更なるものを求められる。中高連携という話もあったが、そういったところも連携を深めながら高めていってほしい。

意見5：特別活動の取組でも本校はできることを実施していて敬意を表している。やめるのは簡単だがやろうと思うと知恵を絞らなくてはできない。そこにこそ課題解決の真骨頂があり、それが生きた教材となる。やれることをやろうとしてみる。そのプロセスが大切である。

意見6：スクール・ポリシーでは3つのポリシーのつながりが大切であり、各々のつながりを明確にするとよい。

意見7：コロナ禍で活動が制限される中、生徒たちは工夫を凝らし本校独自の取組を行っている。生徒一人一台タブレットが貸与されるなど様々なことが転換期となっているが、それが当たり前ようになってきている。しかし、ともするとコミュニケーションが少なくなる危惧もある。親子のコミュニケーションすらコロナ禍で疎外されている。素晴らしいICT環境もそれに依存することなく、改めて社会に出ても必要なコミュニケーションを身に付けていってほしい。

意見8：主権者教育についても紹介がありよかった。高校3年生中心に主権者としての立場を身に付けていってほしい。

5 会議のまとめ

- ・ICT機器を活用し、自ら課題を見つけ解決していくという話があったが、自ら問う力が求められているのではないかと感じる。また、人とのコミュニケーションについて、対面での人と人との触れ合いが根底にあって、その上で、ICT機器などを活用していくことが大切だと改めて感じた。